

『日に新たに』
令和8年度 校長室便り
(4月23日) (第1号)



創立101年目がスタートしました!

春は別れと出逢いの季節。不安と期待が交錯して緊張する季節でもあります。自分は大丈夫と思っても体は疲れています。睡眠と食事、そしてリラックスできる時間をしっかり取りたいものです。



4月は何かを始めるにはよい時期です。小さな目標でもいいので本年度やり遂げたいことを掲げてトライしてみるのもいいですね。一人で行うと長続きしないので一緒にできる「仲間」がいると心強いもの。石川啄木は「人は出会って知人になり、語り合って友になり、共に汗を流して仲間となる」と言っています。勇気を出して自分から話しかけて「友」となり、垂水高校で体験する様々な教育活動に協力して取り組むことで、「仲間」と呼べる人を多く見つけたいですね。

創立101年目となる令和8年度の幕開けです。「日に新たに」新しい時代をつくっていきましょう。

令和8年度 新任式・始業式

4月7日(火) 令和8年度の新任式・始業式を行いました。今年度の定期人事異動では、非常勤講師の先生方も含めて、7名の先生方が着任しました。きっと垂水高校に新しい風を起こしてくれると思います。皆さんも先生方に早く慣れて、先生方から多くのことを学んでください。

始業式の式辞の中で、私は次のような趣旨の話をしました。能登半島地震で被災した工場を個人的に支援している東京在住の高校1年生の例を挙げながら、人は「誰かのために」という思いがあれば、自分でも想像できない力を発揮するものであり、新学期の始めという節目にあたり、「自分のために」そして「誰かのために」という思いを込めて、1年を通して目標とする「志」を立てること、そして、教育者の東野義男さんの「心のスイッチ」という詩を紹介しながら、物事を素直に受け入れる「目」と「耳」を養い、今日から自分を変えるきっかけにしようと呼びかけました。

これからデジタル化が益々進み、AIやロボットにはできない、人間にしかできないことへの価値が高まるのが考えられます。そんな時代だからこそ、周りとの協働しながら新しい価値を生み出せる人材が求められているのだと思います。本年度が「人としてさらに成長する1年」になるように、切磋琢磨して頑張りましょうね。

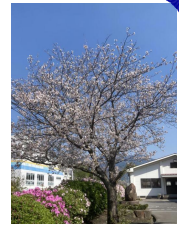
令和8年度 定期人事異動

教科等	名前(敬称略)	前任校等
校長	徳留 健作	沖永良部高校
事務長	丸田 美香	鶴丸高校
地歴公民	塗木 舞香	伊集院高校
養護教諭	野元 美里	喜界高校
事務主事	中屋 颯良	新規採用
家庭	永田 笑	非常勤講師
華道	増田 ともえ	非常勤講師

新任の先生方です。よろしくお願いいたします!

第79回 入学式

校内に桜がまだ残る4月8日(水) 10時より、好天にも恵まれて、垂水市長をはじめ多くの来賓の方々のご列席のもと、第79回入学式を挙行することができました。本年度から導入した新制服に包まれて、43名が入学しました。



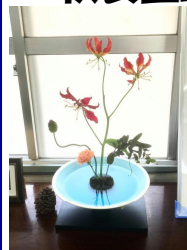
式の中では新入生を代表して、普通科真鍋さんが立派に宣誓を行いました。

式辞の中で私は、晴れて「垂高生」となった新入生に「自分の成長のために努力を厭わない態度を養うこと」、「垂高で過ごす3年間で天からの封書を開けられるよう何事にも挑戦すること」の2つをお願いしました。

自分がどんな人間になりたいのか、社会とどんな関わりをもち、何を学びたいのか、3年間かけて見つけ出すことが大切です。そのためには、現状に満足せず、常に学び続けようとする姿勢が必要だと思っています。

新入生の皆さん、自分のペースで構いません。失敗を恐れず色々なことにチャレンジして、自分ができることや得意なことを多く見つけていきましょう。垂高で充実した3年間を過ごしてください。

校長室に「生け花」のプレゼント



3年2組生活デザイン科の新留さんが授業で生けたと校長室まで届けてくれました。題名が「水面の上に咲き誇る花」。早速机に座って見えるところに飾ってもらいました。考え事をしながら眺めていると、非常に爽やかな思いになり発想も豊かになりそうです。校長室に生け花があるなんて本当に贅沢なこと、生活デザイン科のある垂水高校だからこそできることだと大変ありがたく思いました。

4月20日 全校朝礼

元同僚で現在カウンセラーとして活躍している先生から、先日1冊の本「自分史」が届きました。その本を読んで考えたことについて話しました。

ユダヤ人の精神科医であるヴィクトール・E・フランクル氏がアウシュビッツ収容所で働かされていた時に書いた体験談が「夜と霧」という本になります。その本に出てくるエピソードで、自殺を決意した二人の囚人に、彼は次のような趣旨の話をします。

「どんな時にも人生には意味がある。自分を必要とする何かがあり、自分を必要とする誰かが必ずいて、自分に発見されるのを待っている。」

これを聞いた一人は、外国で自分との再会を待っている娘がいることに気づき、もう一人はある科学の著作シリーズが自分の手によって完成されるのを待っていることに気づき、生きる希望を取り戻しました。



「あなたがたとえ絶望を感じていたとしても、人生はあなたに絶望しているわけではない。あなたには人が必要としている『何か』があり、あなたを必要としている『誰か』がいる。それをあなたに見つけてもらうのを待っている」という言葉に勇気と希望を感じます。

皆さんも高校生活の中で、その「何か」と「誰か」を見つけれられるといいですね。